

手足口病・ヘルパンギーナ・無菌性髄膜炎

手足口病、ヘルパンギーナは主としてエンテロウイルスにより引き起こされる疾患です。また、無菌性髄膜炎は多種多様なウイルスにより発症しますが、全体の85%はエンテロウイルスが関与しているといわれています。

2010年1月から2011年9月までに、埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターで実施した3疾患の検査結果を下表に示しました。

2011年の手足口病は、コクサッキーウイルスA(CA)16型は検出されず、7月から9月にかけてCA6が多く検出されました。全国的にもCA6の流行が確認されています。CA6が検出された手足口病では非典型的な発疹も認められています。

ヘルパンギーナは検体数が少なかったこともあり、流行を捉えることはできませんでした。全国的には手足口病同様CA6が多く検出されています。

無菌性髄膜炎ではムンプスウイルス(MV)が検出されたほか、エコーウイルス(E)6型が複数検出されました。エンテロウイルス(EV)71型の検出はありませんでした。また、この他、パレコウイルス3型、水痘・帯状疱疹ウイルスが1件ずつ検出されました。

臨床診断名別ウイルス検出状況

2011年は9月末までの集計

臨床 診断名	年	検体数	検出ウイルス											
			CA2	CA4	CA6	CA9	CA10	CA16	CB1	CB5	E6	EV71	MV	その他
手足口病	2010	14			3			3				5		3
	2011	19			9	1	1							3
ヘルパンギーナ	2010	8	3	1	2		1							1
	2011	5			1		3							1
無菌性 髄膜炎	2010	20								1	3	2	2	
	2011	35							1	1	4		2	2

* 県内では無菌性髄膜炎患者が増加してきています。県内での流行状況を知るためにも、病原体定点医療機関の先生方からの積極的な検体採取に御協力をお願いします。